

年度末報告書（資金分配団体）

- 提出日 : 2023年4月30日
- 事業名 : 困難を抱える子ども若者の孤立解消と育成
- 資金分配団体 : 一般財団法人ちくご川コミュニティ財団

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
1-1. 卒業生に長期的で個別的なケアとサポートができている	①卒業生の来訪回数 や相談回数	①卒業生が一度は NPO を訪れる機会がある。また、必要に応じて相談対応ができている	2023年3月	①卒業生は毎月延 60 名以上が来訪するようになっていて、進学や	2
1-2. 在籍している子どもたちに個別的なケアとサポートができている	②在籍している子ども達の数と相談回数	②スタッフの対応可能な範囲の数で子どもが在籍し、必要に応じて相談対応ができている	2022年10月	家庭の問題（家庭内暴力等）、金銭、アルバイト、人間関係に関する	
1-3. 居場所・相談場所を運営する人材が十分である	③子どものケアやサポートについての記録がされている	③個別のケース記録がされ、スタッフ間で情報共有ができている	2022年10月	月平均 10 件以上の相談がありそれに応じた対応がある。 ②在籍数は 85 名 毎月数件の相談があり	

	数	できている		個別対応している。 ③個別情報を毎週ミーティングで共有し記録をスタッフ共有フォルダに蓄積し、利用できる状態にしている。 ④事業の一環で新たにプロボノマッチングが行われ3社とコンタクトを開始。 ⑤常勤職員の増員はあるが、現場は多忙な状態が続いている。	
2-1. 学習支援の仕組みができている 2-2. 体験プログラムの仕組みができている 2-3. 進路などについての支援ができている	①学力向上のためのプログラムができている ②非認知能力を向上するプログラムができている ③進路についての相談対応回数、相談内容の記録	①学習プログラムが確立し、継続的に運営されている ②体験プログラムが確立し、継続的に運営されている ③在籍する全ての子どもに対して相談対応ができおり、その内容が記録されている	2023年3月 2023年3月 2023年10月	①学習以前の個別問題の発生と対応が多く、学習面は個別対応によっている。 ②体験プログラム数も増加しその実施ができている。 ③高校進学や進路について受験情報（偏差値等）や志望校の選択に	2

				<p>ついて具体的相談が個別にほぼすべての生徒について行われ全員（28名）が高校に進学できている。</p>	
<p>3-1. ファンドレイジングの仕組みを強化する</p> <p>3-2. 組織評価・診断を受けている</p>	<p>①寄付者の数や寄付額、マンスリーサポーター数、クラウドファンディングの成功数と資金調達額、助成金・補助金の採択数と金額、収益事業の収益額</p> <p>②第三者からの組織評価・診断を受けている。また、認定 NPO を取得している</p> <p>③ニュースレターの発行数や頻度、SNS での発信数</p>	<p>①寄付、助成金等の既存の収入源の増額と新たな収入源を獲得できている</p> <p>②評価認証を受けている。認定 NPO を取得している</p> <p>③ニュースレターを定期的に発行できている。SNS の発信を週に 1 回以上行っている</p>	<p>2023 年 3 月</p> <p>2022 年 10 月</p> <p>2022 年 10 月</p>	<p>① クラウドファンディング第 3 回目は 78.9 万円（目標 150 万円）で目標未達、今回は直接的に子どもに届くテーマでなかった（教室増設）ことや広告広報が的確でなかったことなどが未達の要因と考えられ、今後に生かしていきたい。</p> <p>コロナ対策臨時枠での休眠預金活用事業（事業費 997 万円）久留米市参加支援事業（事業費 548 万円）鳥栖市プラットフォーム事業（50 万円）を申請採択実</p>	2

				<p>施、その他食材提供事業(3件事業費計87万円)、食事配布提供事業(事業費175万円)等の民間の助成金交付が採択された。</p> <p>②資金分配団体の支援のもと組織診断にとりかかり、認定NPOの取得後厳格な組織運営を実施中。</p> <p>③ニュースレターを毎月発行し、2月には第16号を232部発行し主に寄付者を中心に配布SNS発信もFacebookとInstsgramで週3~4回行っている。</p>	
4-1. 居場所となる仮みんかを整備する	<p>4-1.</p> <p>① 施工完了の確認</p> <p>② 関係者による感想による評価</p> <p>使用実績</p>	<p>4-1.</p> <p>① トイレ：浄化槽設置、水洗化</p> <p>② お風呂：簡易的な扉設置、床の改修</p> <p>③ 廊下：床板の張替え</p>	4-1. 2021年12月	<p>4-1.</p> <p>① 改修完了</p> <p>② 改修完了</p> <p>③ 改修完了</p> <p>④ 改修完了</p>	2

		<ul style="list-style-type: none"> ④ 居間：南側の壁に明り取りの窓、薪ストーブの設置。 ⑤ 集い場：離れの部屋改修 		<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 改修完了 <p>一部、老朽化などにより追加補修が必要であったが、12月仮みんかの改修が完了した。</p>	
4-2. 居場所となる、みんかをつくる	4-2. <ul style="list-style-type: none"> ① 設計に必要な情報の取りまとめ ② 設計計画と進捗管理シート 	4-2. <ul style="list-style-type: none"> ① 旧民家を解体し、土地の排水対策を行ったうえで整地、建築を行う。 ② 本みんかが出来上がる。 	4-2 . 2024/3/1	<ul style="list-style-type: none"> ① 旧家屋の解体が2022年6月に完了し、2023年5月より、整地を始める。 ② 本みんかの設計が終わり、2023年5月着工、8月棟上げの計画となっている。2024年3月末の完成・引き渡し予定。 	2
4-3. みんか対象者や関係者からの連絡・相談を受けている	4-3. <ul style="list-style-type: none"> ① 連絡や相談の実績 ② 滞在後の連絡や相談の実績 	4-3. <ul style="list-style-type: none"> ① 対象者または関係者からの相談を常時受けている ② 滞在後の対象者とのコミュニケーション方法が確立し必要に応じて連絡を取り合っている 	4-3. 2022/3/1	<ul style="list-style-type: none"> ① 福岡市のアフターケア事業所「そだちの樹」より対象者3名の相談があった。本年度はSNSでの情報発信や対 	2

		る		<p>象者との接点づくりを開始。LINE（7月開設）、Twitter（9月開設）のDMで延べ203人の相談対応。対象者らと交流を行う中で、みんなについて「施設退所後の居場所があることはありがたい」「施設退所後、孤独になりがちな若者の支援になる」等の声が寄せられている。</p> <p>② 年度中に滞在した対象者2名（いずれも関東から）とは、月に2～3回ほどLINEで連絡を取るほか、対象者の現地支援者とも</p>
--	--	---	--	--

				連絡をとり継続的なフォローに繋がっている。	
4-4. みんな(仮みんな)が子ども若者の居場所として活用されている。	4-4. ①滞在実績として、期間と人数の把握	4-4. ① 常時2名以上の滞業者がいる ② 滞業者についての記録がスタッフによってまとめられている ③ アンケート結果から居場所として機能していると判断できる	4-4 . 2023/10/1	本年度は2名の対象者が滞在(3週間、5日間)した。その他、自然体験目的の家族連れ、農業志望の若者などにみんなが活用されている。2022年9月以降、訪問者312名、宿泊者延べ44名。対象者に関わるアンケートおよび滞在中の記録を行っており、自然環境の良い居場所として評価してもらっている。	3
5-1.みんなに滞在する若者と地域行事への参加、地域の人的課題による活動(道路愛護、美化活動、空き地の維持、景観保全活動など)や農作業支援などに参加している。	①地域行事、活動への参加実績報告 ②参加による対象者の様子を客観的に記録できているか。	短期長期に関わらず、みんなに滞在した若者が、地域住民、外部からの訪問者などに関わりながら、地域行事や活動に参加できるようになっている。	期間中随時年次報告として、実績をまとめる。	2人の滞在を経験して、まずは滞在者のケアが優先されることを感じたため、若者の力による地域貢献は、個々の状況を見ながら対応す	2

				ることが望ましと感じた。 2名の滞在中、地域住民は温かく接してくれた。	
6-1.みんなの事業を継続させるための人づくり、組織づくり、仕事づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ① 適格者の発掘と育成（事業主体者と協力者の数） ② 法人化検討会議の開催 ③ 収益事業の進捗（収入額） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事業主体者3名、および中心的な協力者6名体制とする。 ② 協議内容をまとめた会議記録づくり、または法人化。 ③ 収益事業による収入が増加している。 	2024年3月まで	<ul style="list-style-type: none"> ① 事業主体4名（地域住民から監事と理事各1名就任決定）、協力者8名 ② 2022年4月法人化設立完了 ③ 引き続き、薪づくり（2022年度約40万円）玄米パフ（同5万円）、竹洗剤など（同5万円）の実績に加え、よもぎ乳酸菌、杉の葉オイルなど販路開拓中。並びに商品開発を継続中 	2

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
1-1. 実行団体の内部に事業を企画・運営できる人材がいる 1-2. 調査（評価）を担当できる人材がいる 1-3. 団体の組織力が高い 1-4. 実行団体の組織診断・評価が行われている 1-5. 実行団体のガバナンス・コンプライアンス体制が整っている	①事業運営、評価に関する勉強会・研修会の実施回数と参加者数<共通> ②事業運営、評価に関する個別相談や支援の回数<共通> ③組織図が作成され、団体内の役割分担が明らかになっているか<共通> ④非営利組織評価センターの評価を	①事業運営、評価をテーマにした勉強会・研修会をそれぞれ年に1回以上実施する。また、それに実行団体のスタッフの過半数が参加する。 ②月次面談も含めて月に2回以上は事業運営、評価についての個別相談や支援を行う ③組織図が作成され、役割分担が明らかになった状態で事業運営されている。 ④非営利組織評価センターの評価を受け、課題が明らかになっている	1-1. 2023年 9月 1-2. 2024年 3月 1-3. 2023年 9月 1-4. 2023年 9月 1-5. 2023年 9月	①2022年度下期に事業運営に関連する勉強会を5回実施した。 10/21「クラウドファンディング」、11/16「ファンドレイジング」、12/21「寄付トーク」ゲストに(公財)日本非営利組織評価センターの山田泰久氏、2023年1/18「効く！広報」前編、2/15「「効く！広報」後編」ゲストにリタワークス(株)の中川雄太氏 ②両実行団体に対して継続して月に2回以上個別相談や支援を実施している。 ③わたしと僕の夢に対して日本非営利組織評価センターの認証制度について直接説明をし、センターが主催する説明会にも参加してもらった。みんなの家みんなについて	2

	<p>受け、課題が分析できているか<わたしと僕の夢></p> <p>⑤チェックリストを用いて組織診断が行われ、課題が分析できているか<わたしと僕の夢></p> <p>⑥定款、規定類が適切に整備され、団体ホームページで公表されているか<みんなの家みんなか></p>	<p>⑤チェックリストを用いて組織診断が行われ、課題が明らかになっている</p> <p>⑥定款、規定類が適切に整備され、団体ホームページで公表されている</p>	<p>は、整備した規定類と現状の運営状況を確認し、改定の必要性について説明した。</p> <p>④わたしと僕の夢が日本非営利組織評価センターのベーシックガバナンスチェックを受けることが決定した。2023年度の4～5月で申請予定。</p> <p>⑤上述の通り、わたしと僕の夢がベーシックガバナンスチェックの申請予定。</p> <p>また、JANPIA主催の企業マッチング会により、SMBCグループ、日本航空(株)、(株)セールス・フォースジャパンとの連携が決まった。SMBCグループのプロボノチームからは「ミッション、ビジョンの組織内浸透」についての支援、日本航空からは子ども達への紙ヒコーキ教室や職業講和についての支援、セールス・フォースジャパンからは福岡オフィスの社員よりイベントの際のボランティア参加などを予定している。</p> <p>みんなの家みんなかは、総会、理事会の適切な実施、理事・監事の確保、情報公開、規</p>
--	---	--	---

				定類の運用状況の確認と改善などの伴走支援を実施した。その結果、新しい理事・監事の就任、公式ホームページでの情報公開（事業内容、定款、規定類、関係者・団体）の充実が図られた。	
<p>2-1. ステークホルダーと課題の共有などができる場が定期的に設けられている</p> <p>2-2. 事業に関係する多様なステークホルダーの分析ができている</p> <p>2-3. メディアやSNS、広報誌などを活用した広報の方法が確立している</p> <p>2-4. 実行団体に広報担当の人材がいる</p>	<p>①実行団体の事業についての関係者分析が行われ、図に表されている</p> <p>②実行団体が主催するステークホルダーとの会議等の実施回数と参加者数</p> <p>③広報に関する個別相談や支援の回数</p> <p>④団体内に広報担当者が1人以上いる</p>	<p>①関係図を作成し、詳細な関係者分析ができている</p> <p>②実行団体が主体となって年に1回以上会議を実施できるようになる</p> <p>③両団体に対して月に1回以上、個別相談や支援を実施する</p> <p>④広報担当者の能力強化が図られ、一人でも団体の広報を担えるようになっている。</p>	<p>2-1. 2023年12月</p> <p>2-2. 2022年11月</p> <p>2-3. 2023年9月</p> <p>2-4. 2022年12月</p>	<p>①中間評価時に更新した関係図を元に、更なる連携・協働を図っている。わたしと僕の夢は高校生支援についての公的な施策の実現に向けて久留米市の関係各所と情報交換などを実施している。また、上述の通り、3つの企業が関係者として加わった。</p> <p>みんなの家みんかは、交流人口が増加し事業に共感する協力者が増えている。また、新規の理事、監事も加わった。朝倉市役所の担当課にも直接、事業について説明し理解を得ることができた。</p> <p>②以下の通り、各団体がイベント、講演会等を実施している。</p> <p>わたしと僕の夢：小島武夫氏チャリティ後援会（2022年10月14日）、子どもの権利とアドボカシー講座（2022年10月15</p>	2

			<p>日)、一般社団法人大志塾月例講座 (2023年11月18日)、久留米市市民活動サポートセンターみんくる クラウドファンディング講座の講師 (2023年3月15日)、祐誠高校 (久留米市) ボランティアサークルでのプレゼン (2023年1月12日)、3月21日 休眠預金活用事業 年次報告会 (CCF と共催)</p> <p>みんなの家みんか：2023年3月3日高木地区みんか事業報告会、同21日 休眠預金活用事業 年次報告会 (CCF と共催)、同31日 朝倉市役所事業報告</p> <p>③CCF の企画広報部長である PO が月次面談の際に随時、広報についての相談を受けている。</p> <p>④わたしと僕の夢では SNS を中心に担当を決めて広報を実施している (Facebook と Instagram で週 3~4 回)。みんかでは代表者が兼務している状態 (twitter はほぼ毎日更新)。</p>
--	--	--	---

<p>3-1. 実行団体が安定した寄付収入や助成金等を獲得している</p> <p>3-2. 実行団体が収益事業を行い、収入を得ている</p> <p>3-3. 実行団体にファンドレイジング担当の人材がいる</p>	<p>①ファンドレイジングに関する個別相談や支援の回数<共通></p> <p>②クラウドファンディングの達成回数<わたしと僕の夢></p> <p>③必要に応じて助成金等が獲得できている<共通></p> <p>④収益事業についての個別相談や支援の回数<みんなの家みんか></p> <p>⑤団体内にファンドレイジング（広報と兼務）担当者が1人以上いる<共通></p>	<p>①両団体に対して月に1回以上、個別相談や支援を実施する</p> <p>②実行団体が年に1回以上クラウドファンディングを達成する</p> <p>③実行団体が年に1回以上助成金等を獲得できている</p> <p>④収益事業にて収入を得ている</p> <p>⑤ファンドレイジング担当者の能力強化が図られ、団体のファンドレイジング全般業務を担えるようになっている。</p>	<p>3-1. 2023年12月</p> <p>3-2. 2023年12月</p> <p>3-3. 2023年4月</p>	<p>①両団体に対して月次面談の際に適宜、個別相談や支援を実施している。わたしと僕の夢にはクラウドファンディングの分析、ファンドレイジングを意識した発信についてのアドバイスを実施、みんなの家みんかには収益事業の実績等から事業終了後の資金調達についての相談、アドバイスを実施している。</p> <p>②わたしと僕の夢が2022年11～12月に教室拡充に伴うクラウドファンディングを実施、78.9万円（目標150万円）で目標未達。みんなの家みんかについては本みんか建設に関わりクラウドファンディングを検討している。</p> <p>③わたしと僕の夢の2022年度寄付金の総額は10,422,013円、寄付件数は238件。コロナ対策臨時枠での休眠預金活用事業（事業費997万円）、久留米市参加支援事業（事業費548万円）、鳥栖市プラットフォーム事業（50万円）に採択、その他食材提供事業（3件事業費計87万円）、食事配布提供</p>	<p>2</p>
---	---	--	---	--	----------

				<p>事業（事業費 175 万円）等の民間の助成金の資金調達を達成した。その他、物品寄付も多数寄せられている。</p> <p>④みんなの家みんかは収益事業にて薪づくり（2022 年度約 40 万円）玄米パフ（同 5 万円）、竹洗剤など（同 5 万円）、助成金 55 万円の資金調達ができている。事業終了後に向けて、どの程度、収益を得る必要があるかなど具体的な数値目標の設定が必要。</p> <p>⑤両団体ともファンドレイジング担当者が CCF の勉強会に参加するなどして能力強化を図っている。</p>	
<p>4-1. 筑後川関係地域において、休眠預金等活用事業や本事業について知っている人が増える</p> <p>4-2. 本事業についてマスメディア等に取り上げられている</p> <p>4-3. 多様なステークホル</p>	<p>①休眠預金活用事業や本事業についての説明会等の回数と参加者数</p> <p>②マスメディア関係者とのコミュニケーション回数</p> <p>③事業や地域の社</p>	<p>①当財団が主催する事業についての説明会等を年に 2 回以上実施する</p> <p>②イベントなどの実施時には必ずマスメディア関係者に連絡を取り、取材依頼等を行っている。</p> <p>③月に 1 回以上のサロンの</p>	<p>4-1. 2023 年 12 月</p> <p>4-2. 2023 年 9 月</p> <p>4-3. 2023 年</p>	<p>資金分配団体の公式ウェブサイトを大幅リニューアルし 2023 年 3 月公開。「休眠預金等活用事業ページ」を新設したことで情報発信が丁寧かつ強化された。</p> <p>①2023 年 3 月に年次報告会を実施、会場・オンライン合わせて 40 名が参加、行政、議員、新聞記者の参加もあり、事業についての認知度や理解度を高める機会となった。</p>	2

<p>ダーが本事業について知る機会が設けられている</p>	<p>会課題に関連したサロン（オープン勉強会）の回数と参加者数</p>	<p>開催と一般の参加者数の増加</p>	<p>9月</p>	<p>詳細レポートはこちら↓ https://comfund.com/project/report/20230322.html ②上記報告会を 2021 年度事業の審査委員をした記者に取材してもらい、更に関係性を深めることができた。2023 年 3 月 22 日の西日本新聞に報告会の記事が掲載された。 ③月次勉強会を 2022 年 10 月より 5 回実施し、参加者（各回 10~20 名参加）に休眠預金活用事業、本事業についての紹介を行っている。</p>	
<p>5-1. 定期的に多様なステークホルダーが集まり、地域課題や事業の課題などについて共有する場が設けられている 5-2. 多様なステークホルダーがお互いを知るためのネットワークの場が設けられている 5-3. 本事業についての情</p>	<p>①本事業の関係者分析を行い、図に表されている ②地域円卓会議やネットワークづくりのためのイベントの実施回数 ③Facebook グループの運営状況</p>	<p>①関係図が作成され、各関係者ごとの詳細な分析も行われている ②地域円卓会議を年に 1 回以上開催する ③Facebook グループを作成し、継続的な運営ができている</p>	<p>5-1. 2024 年 1 月 5-2. 2024 年 1 月 5-3. 2023 年 3 月</p>	<p>①弊財団の事業についての関係図を更新し新たなステークホルダーが出てきていることを確認できた（詳細は別紙参照）。各ステークホルダーと課題やロジックモデル等を共有し、更なる関係性の強化を図っていく必要あり。2023 年度では事業終了後の出口に向けて具体的な連携・協働の事例を作っていく。 ②2022 年 5 月に久留米市で災害対応につ</p>	<p>2</p>

<p>報共有や意見交換ができるコミュニティ（Facebookグループ）ができている</p>				<p>いての地域円卓会議を実施。地域円卓会議の実施のノウハウを蓄積することができたため、本事業においても実施を検討していく。2023年度は実行団体向けの地域円卓会議についての勉強会を実施し、理解を深める。わたしと僕の夢については高校生支援をテーマに実施できる可能性が高い。</p> <p>③関係者が SNS 上で自由に意見交換や情報共有ができる場を作るために Facebook グループの企画をしている段階である。テーマ・課題（例えば、「困難を抱える子ども若者の支援」など）を設定したコミュニティを作ることで事業終了後も継続的に交流ができる場にしたいと考えている。</p> <p>リニューアルした資金分配団体のウェブサイトでは「支援先一覧ページ」を新設。実行団体の事業進捗の把握や情報共有、共感者の拡大等に活用されている。</p>	
<p>6-1. 当財団の組織診断・評価の結果に基づき、当財団の組織基盤強化についての計画が立案され、実行さ</p>	<p>①当財団の組織診断・評価が行われ、組織課題が明らかになっている</p>	<p>①当財団の組織診断・評価が行われ、組織課題が明らかになっている</p> <p>②PO の能力を評価する方</p>	<p>6-1. 2022年9月</p> <p>6-2.</p>	<p>①グッドガバナンス認証を取得後、2023年度内の公益財団法人化に向けて活動をしている。</p>	<p>2</p>

<p>れている</p> <p>6-2. 事業を企画・運営できるプログラムオフィサー(PO)が確保・育成されている</p> <p>6-3. 当財団の財政基盤が強化されている</p>	<p>②POの能力を評価する方法ができているか</p> <p>③POが3人以上在籍し、個々の能力強化が図られているか</p> <p>④当財団のファンドレイジング計画を立案し、実行している</p>	<p>法ができている</p> <p>③POが3人以上在籍し、個々の特性に応じて能力強化できている</p> <p>④ファンドレイジングについての計画を立案し、実行している</p>	<p>2023年 9月 6-3. 2023年 9月</p>	<p>②2023年度に弊財団の評価アドバイザーである中村寛樹教授(久留米大学)と検討していく予定である。</p> <p>③PO3名、PO補佐1名在籍しており、ジャンピアの研修会や実際の伴走支援などを通して能力強化を図っている。個々の能力に合わせた役割分担(事業統括、広報、ファンドレイジング、事業運営、評価など)もできている。また、PO人材の確保のためにJICA海外協力隊の関係組織などを通じてPOの仕事について紹介する機会を作っている。その結果、現在、2名がPO補佐業務をしたいと希望している。</p> <p>2023年2月18日第24回国際ボランティア学会学術大会にて「民間公益活動推進の為人財発掘～プログラムオフィサーはどこにいるか?～」をテーマにPO人材についての発表を行った。</p> <p>また、2023年2月6日、13日には久留米市市民活動サポートセンターにてPOの2人がファンドレイジングに関わるセミナーを実施し各回15名の参加があった。休眠</p>
---	---	--	---	---

				<p>預金活用事業により得た経験を地域の団体に伝える機会を作ることができた。</p> <p>④2022年12月～2023年1月まで弊財団の子ども若者基金の存続・成長のためのクラウドファンディングを実施し、159名の支援者から合計2,178,000円の寄付を得た。109名が新規の寄付であり、支援者の層が大きく広がった。</p> <p>また、POの1人が12月に准認定ファンドレイザーを取得、准認定ファンドレイザーが2名体制となったため、さらにファンドレイジングについて強化できる。また、コングラントの導入が完了し、ファンドレイジングのための仕組みも整備された。2023年度のファンドレイジング計画も策定済。</p>
--	--	--	--	---

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み

1.達成の見込み

2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> アウトカムの目標値
6.(任意)非資金的支援の活動に関する報告

③ 広報に関する報告

1. シンボルマークの使用状況
<input checked="" type="checkbox"/> 自団体のウェブサイトに表示している <input checked="" type="checkbox"/> 広報制作物に表示している <input checked="" type="checkbox"/> 報告書に表示している <input checked="" type="checkbox"/> イベント実施時に表示している <input type="checkbox"/> その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2. 広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等） 2023年1月14日西日本新聞 グッドガバナンス認証取得についての記事掲載 2023年1月18日コミュニティラジオ天神「トリプルウィン」に出演 本事業について紹介 2023年3月22日西日本新聞 年次報告会の記事掲載 2.広報制作物等 3.報告書等 2022年12月26日 活動報告書（アニュアルレポート） 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） 2023年3月21日 年次報告会「困難を抱える子ども若者の孤立解消と育成報告会 2023」

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3~4枚程度）

NPOに役立つ！水曜勉強会 スペシャル
「寄付トーク!!!」
12/21(水) 19:00-20:30 @zoom

特別ゲスト登壇
山田 泰久 さん
(公財)日本非営利組織評価センター
業務執行理事
寄付月間共同事務局 事務局長



月次勉強会の告知の様子、12月の寄付月間との連動企画として実施

Supported by



**困難を抱える子ども若者に
支援を届けたい**

200万円
目指します
1/30 まで

かきこみコミュニティ財団
Kakikomi Community Foundation

📊 集まった支援総額

2,178,000 円

目標金額 達成 **2,000,000 円**

NEXTゴール **2,400,000 円**



達成まで **222,000円**

👤 支援者数

159 人

📅 残り

終了

2023年1月30日まで

クラウドファンディングのページ



年次事業報告会の様子

無償学習塾や若者の居場所づくり 孤立解消へ成果と課題共有

久留米市のNPOなど事業報告会

ひとり親世帯などの子も向けに無償の学習塾を開く久留米市の認定NPO法人「わたしと僕の夢」と児童養護施設を退所した若者の居場所づくりを担う久留米市の一般社団法人「みんなの家みんか」による事業報告会が21日、久留米市にある、困難を抱える子どもや若者の孤立解消に向けた課題を市民ら共有した。



児童養護施設を退所した若者の居場所づくりを担う久留米市の一般社団法人「みんなの家みんか」による事業報告会が21日、久留米市にある、困難を抱える子どもや若者の孤立解消に向けた課題を市民ら共有した。

白秋と牧水

早稲田大在学時から生涯にわたって親交を深めた柳川出身の詩人北原白秋と、宮崎県出身の歌人・若山牧水に焦点を当てた芸術祭が21日、柳川市高永町の市民文化館「赤部」でながわで始まった。初日出席する県外作家らによるパネル討論があり、2人の交遊がしのばれるエッセイや作品の朗読が行われ、意匠を交わした。



休眠預金等活用事業

困難を抱える子ども若者の孤立解消と育成」 報告会 2023

共催：ちくご川コミュニティ財団、わたしと僕の夢、みんなの家みんか

日時：3月21日(火)13時～15時(受付開始 12時半)

報告会終了後16時まで交流会

場所：じじっかパーク(福岡県久留米市梅満町32-4 2階)
オンライン(zoom)同時開催

参加方法：ちくご川コミュニティ財団ウェブサイトまたは
右記QRコードからお申し込みください



- プログラム：1.休眠預金等活用事業の近況
2.資金分配団体と実行団体による事業進捗報告
3.評価アドバイザーによる総評

参加無料
途中入退場OK

筑後

配達の問い合わせは
購読の申し込みは
0120-44-0120
(午前6時～午後8時)

久留米総局

〒830-0021
久留米市藤山町12-3
0942-32-5361
FAX 32-5363
kurume@nishinippon.jp

大牟田支局

0944-53-3021
FAX 53-3022

生かす国の制度により、2021年から3年間の期限付きで助成を受けている。法人の取り組み成果と見えてきた課題を知ってもらうと、助成先を決定して伴走支援をする両市の一般財団法人「ちくご川コミュニティ財団」が企画した。

山間地の家で受け入れる「みんなの家みんか」は、人手不足の地元農家や地域との交流を通じ自立を支援している。福岡県代表理事は、21年春から冬までの交流人口が延べ5,000人以上に上ると報告した。いづれも来春というタイミングで、佐藤有専代表理事は「自

己肯定感が上がっている」として、今後は子どもたちの就職観を養いながら地元での協働を模索中という。山間地の家で受け入れる「みんなの家みんか」は、人手不足の地元農家や地域との交流を通じ自立を支援している。福岡県代表理事は、21年春から冬までの交流人口が延べ5,000人以上に上ると報告した。いづれも来春というタイミングで、佐藤有専代表理事は「自

命として、若者たちを

2023年3月22日 西日本新聞 年次報告会の記事掲載

④規程類の整備に関する報告

1. 規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
<input checked="" type="checkbox"/> 全て公開した <input type="checkbox"/> 一部未公開 <input type="checkbox"/> 未公開 → 「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：
2. 変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ → 「いいえ」を選択した場合の理由：

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ → 「いいえ」を選択した場合の理由：
2. 内部通報制度は整備されていますか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ → 「はい」の場合の設置方法（複数選択可）： <input type="checkbox"/> 内部に窓口を設置 <input type="checkbox"/> 外部に窓口を設置 <input checked="" type="checkbox"/> JANPIA の窓口を利用 → 「はい」の場合の利用有無： <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ → 「いいえ」を選択した場合の理由：
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか
<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ → 「いいえ」を選択した場合の理由：

5. コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。

はい いいえ

→ 「いいえ」を選択した場合の理由：

6. 報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。(実施済みの場合含む)

内部監査を実施 外部監査を実施 実施する予定がない

→ 「実施する予定がない」を選択した場合の理由：